

* 65cm 望遠鏡を組上げた橋元昌矣氏の退官記念写真発見

東京天文台が麻布飯倉から三鷹村に移転するころ活躍した髭のおじさん「橋元昌矣」氏の退官記念写真が発見された。氏は働きからすれば当然台長になるような活躍をされた方だが、本郷の天文学教室からにらまれていて台長になれなかったと言いつたされている。氏は、昭和4年秋に26吋赤道儀望遠鏡を組上げている。その記事が天文月報第23巻第1号に掲載されている。この記事「大赤道儀の据付工事を終えて」を読むと、ハワイで「すばる」の建設に携わった筆者には同じ苦勞をした先人の当時のご苦勞が手に取るようにわかるのである。十分な機械がない時代によくも短時間に成し遂げたものだと敬意を感じるのである。写真1が橋元昌矣氏の記事中に掲載された65cm赤道儀望遠鏡ドームである。ここまで書いて、橋元氏の記事には65cm望遠鏡と書かれており26吋という表現がないことに気がついた。どうして26吋赤道儀望遠鏡と呼ばれるようになったか不思議である。

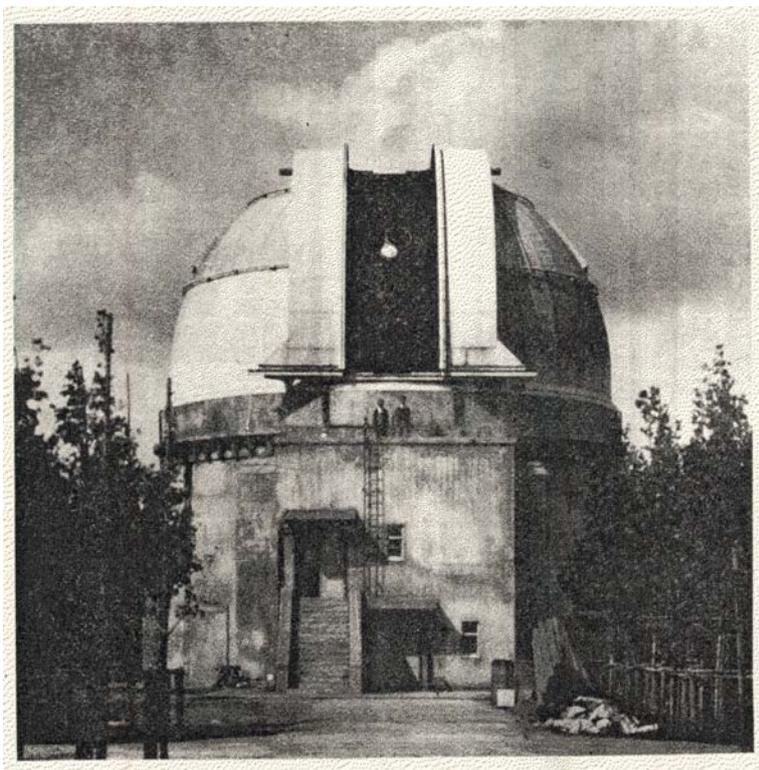


写真1 天文月報 橋元昌矣の記事の65cm望遠鏡ドーム

橋元氏が65cm望遠鏡ドームの建設、望遠鏡の組上げを行っていた頃は、第3代台長、早乙女清房の頃である。早乙女台長は必ず1日に一度は現場に顔を出し、皆を激励したとある。工事に携わった人達の中に、筆者と一緒に在職した人が2人おられる。1人は第6代台長宮地政司、2人目は工場の係長であった竹田吉雄氏である。

この 65cm 赤道儀望遠鏡を組上げた中心人物である橋元昌矣の退官記念の写真が、辻光之助のご子息から提供されたものの中に含まれていることが分かった。この集合写真(写真2)が、橋本昌矣の退官記念写真だと教えてくれたのは元天文時に長く勤務された藤井繁氏であった。東京天文台 100 年史によると橋元氏の退官は昭和 16 年 3 月である。

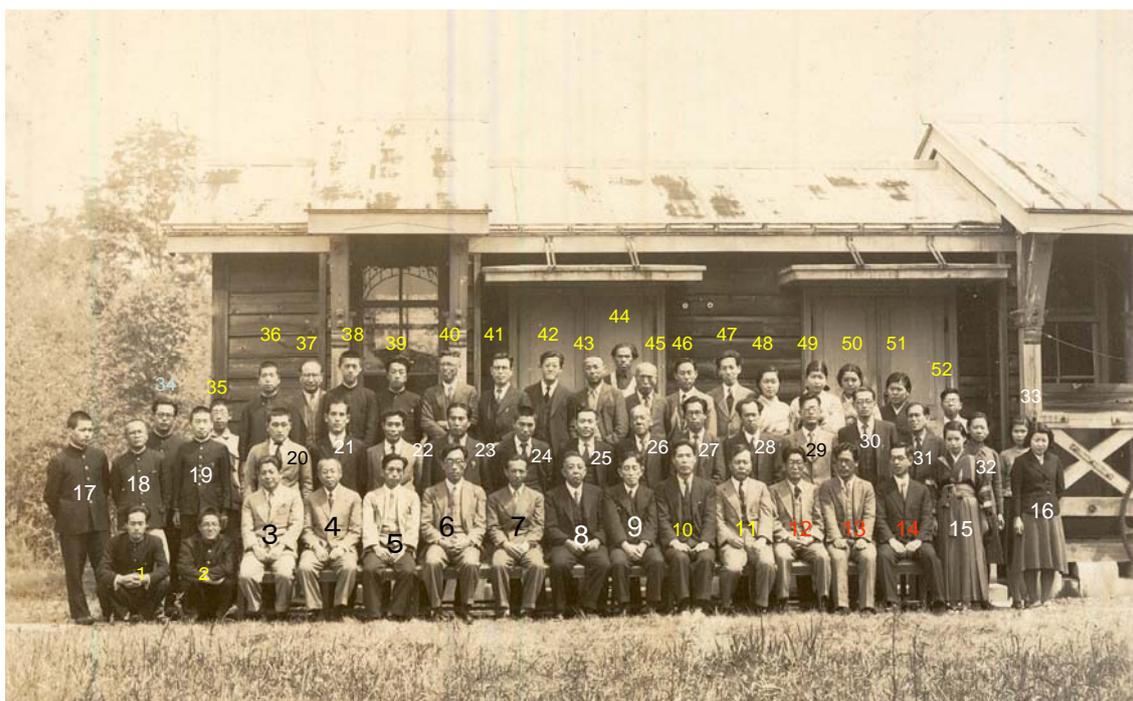


写真2 橋元昌矣氏退官記念写真(昭和16年3月)

筆者は、辻光之助氏の遺品の中の写真から、とりあえず4枚の記念写真を藤井繁氏に送り、人物の同定をお願いした。そのうちの2枚には藤井繁氏自身も写っておられたからである。

さすがの藤井繁氏も全員の同定はご無理であったが、大多数の方々の名前を入れてくださった。写真の人物に番号を入れ、お名前を記すと次のようになる。

1. 日吉 (物理学校学生)、2. 野村 (物理学校学生)、3. 辻光之助、4. 神田茂、5. 奥田豊三、6. 清水 彊、7. 服部忠彦、8. 橋元昌矣、9. 関口鯉吉台長、10. 福見尚文、11. 及川奥郎、12. 宮地政司、13. 野附誠夫、14. 中野三郎、15. 不明、16. 不明、17. 物理学校学生、18. 物理学校学生、19. 物理学校学生、20. 高木重次、21. 井上栄一、22. 檀上堅吉、23. 高沢耕象、24. 千場 達、25. 村上真一、26. 小川清彦、27. 虎尾正久、28. 加藤平蔵、29. 斉藤国治、30. 竹田吉雄、31. 三橋悦郎、32. 岩田、33. 不明、34. 物理学校学生、35. 藤井 繁、36. 樋口、37. 水野良平、38. 不明、39. 不明、40. 二日市金作、41. 小松 繁、42. 不明：国際報時所の人、43. 工藤房之助、44. 荻野友七、45. 寺田勢造、46. 大沢清輝、47. 広瀬秀雄、48. 不明、49. 不明、50. 不明、51. 不明、52. 下保 茂、